

株主総会が本格化した3月期企業で外国人役員の高額報酬が相次いで明らかになっている。日産自動車のカルロス・ゴーン社長の2016年3月期の報酬は10億7100万円と前の期から3600万円増えた。日立製作所で米州総代表を務めるジョン・ドメ執行役員は9億円で、同社の役員報酬としては、1億円以上の役員報酬の開示を始めた10年以降で過去最高という。

22日時点で最高額は、同日退任したソフトバンクグループのニケシュ・アローラ前副社長。入社に伴う契約金などが無くなり、前の期からほぼ半

外国人役員に高額報酬

日産・ゴーン氏、2年連続10億円超

2016年3月期に1億円以上の報酬を受け取った主な役員

(カッコ内は15年3月期の報酬)

社名	氏名・役職	金額
ソフトバンクグループ	ニケシュ・アローラ前副社長	80億4200万円 (165億5600万円)
	ロナルド・フィッシャー取締役	20億9600万円 (17億9100万円)
日産自動車	カルロス・ゴーン社長	10億7100万円 (10億3500万円)
日立製作所	ジョン・ドメ執行役員	9億円 (一)
ソニー	平井一夫社長	7億7920万円 (3億1590万円)
	吉田憲一郎副社長	3億672万円 (1億4412万円)

日立の執行役員 ドメ氏は9億円

減したが、ストックオプションを含めて80億4200万円だった。同グループの海外投資戦略に携わってきたロナルド・フィッシャー取締役も20億9600万円と17%増えた。孫正義社長は1億3000万円だった。日産は22日に横浜市

で開いた定時株主総会で、ゴーン社長の報酬が2年連続で10億円を超えたことを明らかにした。前期まで6期連続で増収・最終増益だった実績を反映した。10年以降で過去最高という。

日立は4人が1億円を超えた。ドメ執行役員はデータ分析を手がける米ベンタホの買収を主導するなど、米国事業拡大をけん引してきた実績のほか「米国という地域性を考慮して報酬を決めた」という。同社で2番目の中西宏明会長らは1億6100万円

で、ドメ氏の報酬は5倍以上となった。日本人役員でも増額が相次いでいる。業績改善が鮮明なソニーは賞与に相当する業績連動報酬を5年ぶりに再開。平井一夫社長の報酬は約2.5倍の7億7920万円に増えた。吉田憲一郎副社長も3億672万円とほぼ倍増した。

一方、不正会計問題で経営再建中の東芝は、前期に2人いた1億円以上の役員がいなくなっただけで、資源分野の減損処理で最終赤字に陥った三井物産も1億円以上の役員が6人から3人に減るなど、業績動向で明暗を分けた。